

【授業科目】健康教育論 Health Education

担当教員	開講年次	選択必修	単位数	時間数	授業形態	実務経験	オフィスアワー	教職員への授業公開	
後藤由紀、大谷喜美江、佐藤優子	3年次後期	選択	1	15	講義 演習	あり	巻末掲載	可	
授業概要 (内容と進め方) 及び 課題に対する フィードバック方法	授業概要／ヘルスプロモーションの実践に必要な個人因子及び社会環境の視点を取り入れた健康教育の方法、効率的で実践可能性のある健康教育について学習する。健康教育プログラムの企画・立案・実施・評価方法について、病院・施設・地域等で実施される健康教育を企画運営する上での技術の習得をめざし、演習を中心に展開する。 課題に対するフィードバック方法／各教員から総評コメントを公開する。								
授業の位置づけ	本学のディプロマ・ポリシー③「人間の健康を環境との関係において捉え、地域社会の生活者の視点から医療技術援助ができる。」の達成に寄与している。								
到達目標 (履修者が到達すべき目標)	①健康行動に関する理論を活用して、健康の維持増進、疾病予防・重症化予防の管理ための健康教育の企画書の作成ができる。 ②講義を通じて、個人・集団の生活や文化的背景、個人および地域の特性に応じた健康教育のプロセスと健康教育を実施する上で必要となる知識・技術が習得できる。 ③個人や集団の特性に応じた健康教育の企画をすることができる。								
時間外学習 に必要な 内容・時間	事前・事後学習 事前学習:教科書の該当・関連箇所、随時紹介する参考図書等を読み、まとめておく。(各120分) 事後学習:同日の学習内容を振り返り、整理しておく。(各120分) 図書館に下欄の参考書がそろっているため、学習の参考にすること。 ※上記時間については、指定された学習課題に要する標準的な時間を記載してあります。日々の自学自習全体としては、各授業に応じた時間(2単位15回科目の場合:予習+復習4時間/1回)(1単位15回科目の場合:予習+復習1時間/1回)(1単位8回科目の場合:予習+復習4時間/1回)を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。								
授業計画	1. 授業ガイダンスとグループワーク説明:ヘルスプロモーションに基づく健康教育の理念,健康教育に用いる様々な理論とモデル(1)(健康信念モデル、自己効力感) 2. 健康教育に用いる様々な理論とモデル(2)(動機付け理論、変化ステージモデル等)行動変容のための集団学習理論とヘルスコミュニケーション 3. 健康教育実施に向けた準備: 手順および評価を含む企画書・指導案の必要性とその構造 4. 健康教育実施に向けた準備(健康教育とPDCA) 健康教育におけるPDCAサイクルの実際 5. 健康教育のための集団アセスメントと企画書の作成(GW) 6. 健康教育のための企画書と媒体の作成①(GW) 7. 健康教育のための企画書と媒体の作成②(GW) 8. 企画書・媒体の発表						後藤 後藤 後藤 後藤 後藤・大谷・佐藤 後藤・大谷・佐藤 後藤・大谷・佐藤 後藤・大谷・佐藤		
評価方法 評価基準	筆記試験 50%、ワーク成果・参加態度(40%)、授業態度(10%)								
教科書	標準保健師講座2「公衆衛生看護技術(第5版)」医学書院(公衆衛生看護活動論Iで使用)	参考書等	新しい健康教育 保健同人社 健康行動理論の基礎 医歯薬出版(株) 健康行動と健康教育 医学書院						
学生への助言等	医療職は、様々な環境で生活するすべての人々を、包括的かつ継続的にアセスメントし、個人および集団が自律的に自身の健康の保持・増進する力を高めていけるよう支援していくことが求められます。本科目では、全ての領域で実践が必要となる健康支援技術の一つである健康教育の基礎的考え方と企画までの具体的なプロセスを体験的に学んでください。 対象となる人々の「主体性」を引き出すことを視野に入れた支援の学習ですので、学生の皆さん自身も主体性を持ち、積極的に参加してください。								